

企業の生物多様性取り組み支援 ～CSR活動との連携～

環境研究部 水生生物グループ

■事業の概要

生物多様性の保全は、社会全体が連携して取り組むべき課題であり、特に企業の取り組みへの期待は大きい。多様な主体とともに大阪の生物多様性を保全することを目的に、企業のCSR活動と連携した生物多様性保全の推進と、地域の生物やその生息地保全の取り組みへの支援を行った。

■目的

多様な主体と連携した大阪の生物多様性保全と、企業による保全取り組み推進

■内容

I CSR活動による生物多様性保全の推進

企業向けガイドブックの作成

CSRとして大阪の生物多様性保全に取り組もうとする企業向けのガイドブックを府と協力して作成し、平成25年度に大阪府が発行した。企業が参画しやすいように、府の施策・制度や、企業の取り組み事例、連絡先を紹介した。



企業向けガイドブック

I 地域の生物やその生息地保全の取り組みへの支援

生息地での取り組み支援

企業との連携や取組に参加できる場として、平成23年から企業、市民団体、大学、行政等とともに「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(通称イタセンネット)」を設立し、運営や活動を支援している。

淀川の外来種駆除や清掃活動を行い、イタセンパラの野性復帰と、淀川の自然再生を目的に活動している。現在、CSR活動として活動する企業8団体を含む計39団体が参画。 ※日本水大賞 環境大臣賞受賞(平成27年)



イタセンパラ
大阪府絶滅危惧Ⅰ類



地曳網での調査と外来種駆除



連携団体



活動の様子



清掃活動

事業所敷地内での取り組み支援

企業のビオトープ等を活用した、地域の希少種や生態系ネットワークを守る取り組みを支援している。

- ビオトープへの生きものの導入や調査指導
- 地域在来の生きものかどうかの調査
- 病気発生時や外来種侵入時の対応
- ビオトープでの環境学習プログラム提案



ミズアオイ
大阪府絶滅危惧Ⅰ類



カワバタモロコ
大阪府絶滅危惧Ⅰ類



ミナメダカ
大阪府絶滅危惧Ⅱ類



パナソニック(株)エコソリューションズ社
はんえいのひろば (門真市)



パナホーム(株)
つながりのひろば (豊中市)



積水ハウス(株) 新梅田シティ
「新・里山」 (大阪市)



(株)小松製作所 大阪工場
コマツ里山 (枚方市)

当研究所は“おおさか生物多様性パートナー協定”を支援しています。

この協定は大阪府が平成25年に創設した制度です。生物多様性保全活動に取り組む企業を大阪府及び専門機関等が連携して支援することで、企業の生物多様性保全活動を促進し、企業価値の向上を図ることを目的としています。

現在、5社と協定を締結しており、当研究所はビオトープの管理や希少種保護、環境学習などで研究成果を活用した学術・技術的な支援を行っています。

企業の生物多様性取り組み支援 ～CSR活動との連携～

○山本義彦・近藤美麻・上原一彦（環境研究部）

1. 目的

企業は事業を通して、国内外で直接的もしくは間接的に生物多様性の恵みを利用し影響を及ぼしている。原材料の調達など事業活動におけるグローバルな課題はもちろんのこと、地域社会の一員としてCSR（企業の社会的責任）活動の取り組みも期待されている。多様な主体とともに大阪の生物多様性を保全することを目的に、企業のCSR活動と連携した地域の生物やその生息地保全の取り組みへの支援を行った。

2. 方法

(1) CSR活動による生物多様性保全の取り組み推進

大阪で具体的にどのような取り組みができるか、また、どこに相談すればよいのか分からないという声を受け、CSRとして生物多様性に取り組みようとする企業向けのガイドブックを作成した。

(2) 地域の生物やその生息地保全の取り組みは、活動場所によって「生息地」と「事業所敷地等」の2つに分けて紹介する。

① 生息地での取り組み支援

企業との連携や、取り組みに参加しやすい場として、平成23年から企業・市民団体・大学・行政等とともに「淀川水系イタセンバラ保全市民ネットワーク（通称イタセンネット）」を設立し、運営や保全活動を支援している。淀川でのイタセンバラの野生復帰と淀川の自然再生を目的に、城北ワンドでの外来種駆除や生物調査、清掃活動を行っている。

② 事業所敷地等での取り組み支援

企業が管理するビオトープ（水辺）を活用し、地域の絶滅危惧種保全や生態系ネットワーク創出の取り組みを支援した。絶滅危惧種の導入は地域のビオトープに類似した環境に本来生息していた種を保護し、安定的な生息場所を確保することを目的とし、水系や遺伝的な多様性に配慮した。

3. 結果および考察

(1) ガイドブックには、どのような手順で取り組んでいくことができるかや、府の施策・制度、府内での企業の取り組み事例、活動の窓口となる連絡先を掲載し、平成25年度に大阪府が発行した。府が主催するシンポジウム等で配布している。

(2) 生息地で取り組んでいるイタセンネットには、現在、CSR活動として参加している企業8団体を含む計39団体が参画している。継続した取り組みや調査の結果、外来種の抑制や生息環境の改善が認められたことから、平成25年にはイタセンバラの野生復帰が行われた。平成27年には、多様な主体が連携して保全活動を行っているとして、日本水大賞 環境大臣賞を受賞した。

事業所敷地等で支援している企業ビオトープへの絶滅危惧種の導入は、パナソニック(株)エコソリューションズ社（門真市）、パナホーム(株)本社（豊中市）、積水ハウス(株)新梅田シティ「新・里山」（大阪市）で行った。導入は種の保全に寄与するだけでなく、ビオトープの維持管理や継続的な調査の実施など、モチベーションアップにつながった。ビオトープは生態系ネットワークとして重要であることから、南海電気鉄道(株)、コマツ大阪工場とも連携し、生物多様性に関する社内研修や、ビオトープを活用した地域向け環境学習の実施提案など取り組みを支援した。なお、これら5社は、大阪府が創設した「おおさか生物多様性パートナー協定」を締結しており、本研究所も参画している。